

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	芦屋町立山鹿小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	1	2	1	12	20
児童数	67	56	62	43	40	44	4	316	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力をつける学習指導方法の工夫・改善 ~ 国語科、社会科における個に応じた指導を通して ~ 【国語科】「話すこと・聞くこと」を中心とした伝え合いの学習 【社会科】子どもの興味・関心を高める地域素材の教材化
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり(特別支援学級)・国語 すべての教科の基礎的な力となり、生きる力をつける学習であるため。 ・1年生・国語 言語に関する興味・関心を高め、基礎・基本の学力を定着させることが大切な時期のため。 ・2年生・国語 言語に関する興味・関心を高め、基礎・基本の学力を定着させることが大切な時期のため。 ・3年生・社会 初めて社会科を学習する学年であり、基礎・基本の学習に習熟させることが大切な学年であるため。 ・4年生・社会 地域素材の教材化に適した学習内容で、課題別学習が可能な学年であるため。 ・5年生・国語 言語感覚を磨き、基礎・基本の学習を発展的な学習へつなげる単元構成が可能な学習内容であり、課題別学習が可能な学年であるため。 ・6年生・社会 地域素材の教材化が可能な学習内容であり、子ども一人ひとりが課題を持って発展的な学習に取り組むことができる学年であるため。
--

(2) 年次ごとの計画

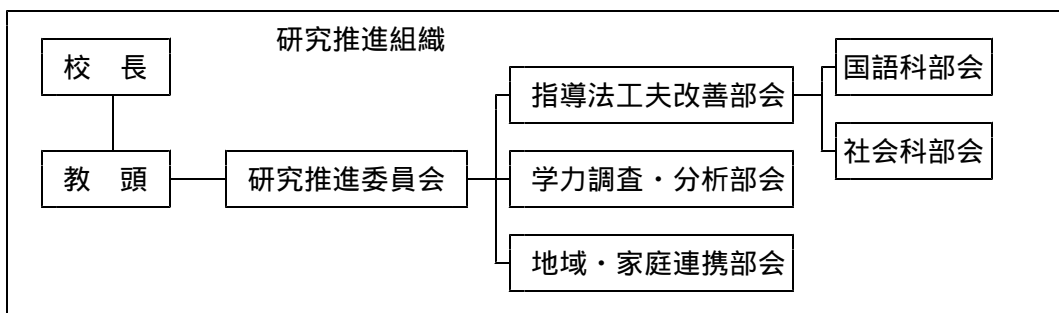
平成14年度	テーマ 基礎・基本の力をつけ、発展的な学習へつなげる学習指導法の工夫 ~ 【国語科】読むことを中心とした説明文の学習を通して 【社会科】子どもの興味・関心を高める地域素材の教材化を通して ~ 研究の見通し(仮説) 国語科の研究仮説 国語科の説明文の学習において以下の手立てを取り入れれば、子どもに基礎・基本の力がつき、発展的な学習につながる指導ができるであろう。 基礎・基本の学習を発展的な学習に生かす学び方を工夫する。 評価を指導に生かす。 社会科の研究仮説 社会科において以下の手立てを取り入れれば、子どもに基礎・基本の力がつき、発展的な学習につながる指導ができるであろう。 典型教材をもとに地域素材の教材化を図り、発展的課題に結ぶ追求的な活動を展開する。
--------	---

	<p>評価を指導に生かす。 研究の内容・方法 研究の内容 国語科、社会科における基礎・基本の学習、発展的な学習の取り扱い。 研究の方法 理論研究、仮説の実証授業・研究協議会を行う。</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力をつける学習指導方法の工夫・改善 ～国語科、社会科における個に応じた指導を通して～ 研究の見通し 国語科の研究仮説 国語科「話すこと・聞くこと」の学習において以下の手立てを取り入れれば、子どもに基礎・基本の力がつき、発展的な学習につながる指導ができるであろう。 国語科において、各領域との関連を図った単元を設定する。 学習過程の場を工夫する。 社会科の研究仮説 社会科の学習において以下の手立てを取り入れれば、子どもに基礎・基本の力がつき、発展的な学習につながる指導ができるであろう。 教科書教材をもとに地域素材の教材化を図り、発展的な課題につなぐ追求的な活動を展開する。 評価を指導に生かすよう、単元構成を工夫する。 研究の内容・方法 研究の内容 国語科、社会科における基礎・基本の学習、発展的な学習の取り扱い。 研究の方法 理論研究、仮説の実証授業・研究協議会を行う。</p> <p>* 本校の実践がより明確になるように、研究主題を変更した。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力をつける学習指導方法の工夫・改善 ～学力向上フロンティアスクール事業の推進を通して～ 研究の見通し 国語科の研究仮説 「書くこと」において、各領域との関連を図った学習を設定する。 児童の生活体験や学習実態に応じた、表現意欲を高める課題を設定する。 社会科の研究仮説 教科書教材をもとに地域素材の教材化を図り、発展的な課題につなぐ追求的な活動を展開する。 評価を指導に生かすよう、単元構成を工夫する。 研究の内容・方法 研究の内容 国語科、社会科における基礎・基本の学習、発展的な学習の取り扱い。 研究の方法 理論研究、仮説の実証授業・研究協議会を行う。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- * 個に応じた課題別学習や、学習形態の工夫により児童の学習理解力が高まり、学力の向上が見られるようになってきた。
- * 公開授業、実践交流会等を通して、授業改善と学力向上に関する本校なりの提案授業をすることができた。その中で、児童個々に応じた発展的・補足的学習を考えることを通して、よりよい授業を目指す職員の意識が高まった。

2. 今後の課題

- * 年間指導計画の中で、児童の実態、学習する単元のねらいや内容に応じて、適切な学習形態を検討していくこと。
- * 児童の生活体験や学力実態に応じた学習課題を設定し、追求意欲を高める実践を行うこと。
- * 児童の学ぶ姿勢、教師の指導力の向上を目指し、日常的な取り組みを強化すること。
- * 保護者、地域に向けて、より計画的、効果的に取り組みを啓発し、連携を深めること。

学力等把握のための学校としての取組

- * 5月 学力診断テスト (学力実態の把握、前年度との比較)
- * 6月 国語アンケート (話すこと・聞くことに関する児童の意識調査)
- * 7月 生活実態アンケート (生活実態の把握と学力との相関を見る)
- * 12月 学力実態調査 (1, 2学期学習の定着度を測る)
- * 12月 児童の学習に関する意識調査 (関心・意欲面での実態把握)
- * 3月 児童の学習に関する意識調査 (関心・意欲面での変容を見る)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会等の開催実績
平成15年 6月 3日 国語科・社会科公開授業、情報交換会
10月 15日 国語科・社会科公開授業、情報交換会
11月 19日 実践交流会、研究協議
参観者にアンケートを実施し、外部評価をいただいた。
- * オープンスクール
平成15年 6月 17～19日
12月 3～5日
保護者、地域に向けた普及の取り組み。
- * 研修視察校の受け入れ

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無